

前回の検討会における各委員の意見

観 光 庁
平成28年3月24日

前回の検討会における各委員の意見①

【業務範囲に関する意見】

- ・ **業務範囲を明確化**し、取り締まりを行うことにより制度の実効性を確保していく必要がある。（旅行会社）
- ・ **業務の範囲に関する整理が不明確**なところがあるので、そこは明確にする必要があるのではないか。（地方自治体）
- ・ ラーメン屋を案内できる人が10倍に増えても何の解決にもならない。**旅行会社で手配できるレベルの人を2倍、3倍にするほうがはるかにいい。**（旅行会社）

【需給に関する意見】

- ・ **有資格者はほとんど活用されておらず**、訪日外国人観光客の数が増えても、質の保障のある国家資格者と特例ガイドで対応可能。**数は不足していない。**（通訳案内士団体）

【品質確保に関する意見】

- ・ 実態としては、**口コミが、どこまで全世界の旅行会社に共有を徹底できるか**という点、**非常にハードルは高い**と思う。口コミで担保というのは、現実的ではない。（通訳案内士団体・旅行会社）
- ・ 質の低いガイドや悪質なガイドが増加し、**安全で信頼できる日本の印象が損なわれ**、リピーターの増加も望めなくなる懸念がある。（通訳案内士団体）
- ・ 悪質な商売をする中国などからの闇ガイドの横行を許し、近い将来、きちんと日本を紹介できる、**質の高い通訳案内士が見つからなくなる**危険性がある。（通訳案内士団体）
- ・ キックバックやぼったくりのような話は、**業務独占の議論とは別の議論。**（旅行会社）
- ・ 通訳案内士法を改正し、無資格ガイドを使って悪徳な店などに連れて行かせている**ランドオペレーターの取扱停止などの措置を取るべき。**（通訳案内士団体）
- ・ ガイドは訪日のお客様の安全を守るための的確な情報を与える、**危機管理の任務も備えており**、他の業務独占職と同等以上の責任がある。（通訳案内士団体）

前回の検討会における各委員の意見②

【資格取得意欲に関する意見】

- ・ 通訳案内士試験の受験者が減り、将来の優秀な人材が育たなくなる恐れがあり、インバウンドの旅行会社が安心してツアーを依頼できる**優秀な通訳案内士を探すことが困難となる懸念**がある。（通訳案内士団体）
- ・ これから先、**若い人のモチベーションが落ちて**、さらにそういうクオリティーを取りに行こうという形になりにくくなるのかなという危惧がある。（旅行会社）
- ・ 業務独占を廃止した場合、若い受験者は、**これから難しい試験を受けるような気持ち**がどんどんなくなっていく。業務独占を廃止する理由が分からない。（通訳案内士団体）

【業務独占の取扱いに関する意見】

- ・ 万が一、業務独占が外れた場合においても、**旅行会社が依頼する場合は、必ず通訳案内士でなくてはいけない**、あるいは、**FITが個人でガイドを雇う場合は、一部の部分は業務独占を外す**など、方法はあるのではないか。（通訳案内士団体）
- ・ **業務独占の有無にかかわらず**、ガイドのレベルを確認できるクオリティーの指標は必要。**旅行会社としては、レベルの高い方を使うので、仮に業務独占を廃止したとしても運用的には限りなく今の資格制度に近づく**。（旅行会社）
- ・ 仮に業務独占がなくなったとしても、明確にクオリティーが担保できるというのがあれば、**旅行会社はクオリティーの高い人たちを中心に使っていく**ことに現実的にはなる。（旅行会社）
- ・ 例えば、**A、B、C、Dぐらいの5段階ぐらい**にして、旅行会社が依頼する観光ツアーには必ず上位レベルの人が従事しなくてはならないこととし、個人の観光客への対応には、下のレベルの人でもよいというような、**柔軟な改善策**もあるのではないか。（通訳案内士団体）
- ・ 韓国が、1999年に規制緩和を行った後、10年経って、**資格制度を再び見直した事例に我々も学ぶべき**。（通訳案内士団体）

【その他の意見】

- ・ 国や自治体がスマホなどで適材適所で稼働可能な通訳案内士を検索できるシステムを開拓してほしい。（通訳案内士団体）
- ・ 業務独占規制を維持するのであれば、東南アジアやイスラム圏の少数言語の扱いも検討する必要がある。（旅行会社）